

第4回

2023年 9月30日(日)

開演13:30 (13:00 開場)

令和5年度 特別企画
事前勉強会

ヴォーリズ学園・本館5階 ヴォーリズ平和礼拝堂

〒523-0851 滋賀県近江八幡市市井町177

参加者 約100名

第1部／記念講演会

「八幡山城と八幡堀」



なかい ひとし
講師：中井均氏

滋賀県立大学名誉教授・日本城郭協会評議員

1955年大阪府生まれ。龍谷大学文学部史学科卒業。
(財)滋賀県文化財保護協会、米原市教育委員会、長浜城歴史博物館館長を経て、2011年に滋賀県立大学人間文化学部准教授。2013年度より同教授。2021年に定年退職し名誉教授。金沢大学や大阪大学などの非常勤講師も務めた。専門は日本考古学で、特に中・近世城郭の研究、近世大名墓の研究。

【主な編著書】

- 著書『戦国の城と石垣』高志書院 2022
- 著書『織田・豊臣城郭の構造と展開 下』戎光祥出版 2022
- 著書『織田・豊臣城郭の構造と展開 上』戎光祥出版 2021
- 著書『戦国期城館と西国』高志書院 2021
- 著書『中世城館の実像』高志書院 2020
- 著書『秀吉と家臣団の城』KADOKAWA2021
- 著書『信長と家臣団の城』KADOKAWA2020
- 著書『城館調査の手引き』山川出版社 2016
- 共著『歴史家の城歩き』高志書院 2016

中井先生の資料を元に、「八幡山城」築城の経緯、「八幡堀」の役割、など分かりやすくお話しただいた。

特に印象に残ったのは、西の丸の出丸についての解説。

日本城郭の石垣では隅角部を設けるのが基本だが、この出丸は角が丸く収められている。地理上、苦肉の策だったのではないかと推測されるが、極めて異例だとのこと。

昔は木々が生い茂って見えなかったが、整備された現在では立派な石垣を確認することができる。

また、堀と城下町との関係性についての話も興味深かった。

八幡堀は武家地を囲む堀で、町人の住む城下町は堀の外である。

(鉄砲町は例外で、堀の内側にある。攻められた時に武器が流出するのを防ぐため。)

日本では、古くから武家地を囲む堀が多く採用されてきたが、町人が住む城下町ごと堀で囲む「惣構・総構（そうがまえ）」の堀へと変わっていく過渡期の城と言えるそう。

天正18年、秀吉は北条氏の小田原城を攻めたが惣構であったため、苦戦を強いられた。それまで、豊臣は「惣構」を知っていたか、知らなかったか、いずれにしても採用してこなかった。しかし、小田原攻めの翌年（天正19年）には、秀吉は京都を囲む「御土居（おどい）」を作った。これは、敵の来襲に備える防御としての役割と、鴨川の氾濫から町を守る堤防としての役割を兼ねていた。

惣構の利点は、田畑や職人町を囲い込むことにより、食料の確保や武器の修理など、籠城戦がしやすくなることと、町人が逃げ出しても武器や財産を守れるところにある。

そして、当時の八幡堀は琵琶湖とつながっており、湖上を往来する舟は八幡堀へ寄港させるようにしたため、商業が発展し、近江商人の活躍へとつながった。

他にも城や堀の構造についての専門的なお話や、先生の近江八幡の思い出などを交えながら、お話しいただきました。

**当日配布した中井先生の資料を閲覧できるようにしています。
ぜひ、ご覧ください。**

■第2部/パネルディスカッション

パネリスト：中井 均 氏(滋賀県立大学名誉教授)
坂田 孝彦 氏(近江八幡市文化観光課)
田中 宏樹 氏(近江八幡観光物産協会)
高木 茂子 氏(NPO法人秀次倶楽部理事長)

コーディネーター：井戸 洋 氏(ジャーナリスト)

井戸／ **八幡山城の1番の魅力は？**

中井／ 本物の石垣が残っていること。大坂城、聚楽第にも当時の石垣は残っていない。豊臣時代の石垣が残っているのは誇りである。

(注：現在ある大坂城の石垣は再築されたもの。最近、豊臣時代の石垣が地下にあることが発見されたが、まだ公開されていない。)



井戸／ **今後、史跡として指定されることはあるか？**

中井／ 山頂に瑞龍寺が移築されていたり、ロープウェーが通っていたりして、以前なら無理だったが、今なら可能性としてはあり得る。

井戸／ **市が主導しての調査などは？**

坂田／ 行政的に、なんとも申し上げられない…。

井戸／ **ロープウェーで登ってもお寺や景色は見るが、城跡として注目されることは少ない。観光客への告知などは？**

田中／ 八幡山城の存在は現状、発信不足と言わざるをえない。年間10万人近くは、八幡山を訪れていると思うので、八幡堀とお城の関係性なども発信し、お城ファンの取り込みも狙っていきたい。

井戸／ **八幡山城の想像図は？**

中井／ 想像復元イラストなどを作ると良いのでは？

高木／ 昔、秀次公の人生を漫画にしたことがあるが、その時も八幡山城のイラストは描いていない。

井戸／ **八幡山から出土した金箔瓦について**

高木／ ずいぶん前になるが、八幡山がまだ整備されていない時に、青年会議所とNPOメンバーで掃除した時に偶然見つけて、持ち帰って届けたら、ものすごく怒られた…。

中井／ もし、拾ったら、遺失物扱いとして、警察へ！

それから、瓦に初めて金箔を貼ったのは信長。凹んでいるところに金を施した。これは技術的に難しいし、雨に濡れても落ちにくいという利点がある。一方、秀吉は出っ張った方に金を施している。これは大量生産しやすい。しかし、誰でも金箔瓦を使用して良いわけではなく、豊臣一族の権利であった。もちろん、秀次も使えたので、八幡山城も金箔瓦が採用された。

井戸／ **京極高次の役割について**

中井／ 城の石垣は地震などで崩れては修復していくもの。天正 18 年の地震で八幡山城が崩れている可能性が大きい。よって、京極高次が修復したであろうと思われる。

井戸／ でまる
出丸について

中井／ 約 15 年前、「八幡山の景観を良くする会」が公園付近から整備を始め、だんだん上の方へ上がっていったところ、石垣が見えてきた。出丸の石垣は山の尾根にあるのに意外と大きくて、すごい！豊臣政権の城の特徴として、下から壮大な石垣が見えることがあげられる。

井戸／ はじょう しろわり
破城（城割）について

中井／ 居館跡の礎石のあったところに瓦をまいた跡がある。建物は壊して、材木は転用される。八幡山城の材料は大津城へと転用されている。その証拠に、金箔瓦が出土している。さらに一部は彦根城へも転用されている。

井戸／ **八幡堀について**

中井／ 彦根城は外堀を埋めてしまい、今は道路になっている。
八幡堀も埋められるところを、市民運動で阻止した結果、現在は観光地やロケ地として活用されている。これは、素晴らしいこと。

井戸／ **水質改善について**

坂田／ 一級河川でもあるので、市だけの判断ではできない。県の協力も必要。

田中／ 魚は住んでいる。どれくらいまで改善したいか…だが、濁っているからこそ時代劇のロケ地として成り立っている部分もあり、難しいところ。

田植え時期は特に濁るが、それは水路がつながっているので避けられない。

質問タイム

最後に会場からの質問を受け付けました。たくさんの方から手が挙がりましたが、時間の都合で皆様からの質問をすべてお聞きすることができず、申し訳ありませんでした。抜粋してご紹介いたします。

質問 1 / **城が残っていない安土城、八幡山城をどうアピールしていけば良いか？
安土城を復元したいという話もあるが、どう思うか。**

中井／ 復元するよりも、本物からのイメージを大切にすべき。金沢城の石垣めぐりなども参考になるのでは。

質問 2 / **八幡山に城を作った理由を教えてください。安土城が燃えたのは天守だけだったから、使おうと思えばそのまま使えたはずで、その方が合理的だし、便利だったのでは？**

中井／ 秀吉は安土山を使いたくなかった、というのが 1 番の理由だと思う。信長のイメージを払拭したかった。後に安土山に信長の廟所を作ったり、代々織田家の子孫が住職となり信長の菩提を弔う摠見寺をみても、「信長の墓」として、安土城を封印したかったのだと思う。



また、会場には八幡堀の古い写真をパネルで展示しました。
若い世代には信じられないような光景もありましたが、「懐かしい!」と話す参加者も見られました。
このようなイベントを通じて、次世代へまちづくりの歴史を伝えていくことの意義も感じました。

今回の講演会にご参加くださってありがとうございました。

来年度以降も、事前勉強会、検定事業を継続してまいりますので、ぜひご参加くださいますよう、よろしく願いいたします。